

第77回卒業証書授与式～卒業（たびだち）の時～

令和6年3月11日（月）、寒の戻りの影響でしょうか、晴天ではありますが空気が凛とした朝でした。5年ぶりに多くの来賓の方々にもご臨席をいただき、第77回敷島中学校卒業証書授与式を挙行することができました。昨年5月に新型コロナウイルス感染症が5類に移行されたとは言え、卒業生のみなさんにとっては、それまでの学校生活は制限の多い日々が続いていました。そのために中止になった行事や部活動の大会もありました。しかし、みなさんは、誰も責めることなく常に前を向き、創意と工夫をし、これらの逆境に負けず、力を合わせて乗り越えてきました。このように、卒業生のみなさんは「雨の後には美しい虹がかかる」ことをこれまで学んできました。逆境や困難を乗り越えた先の美しい虹のかかる風景を、仲間と一緒に見る時が必ずやってくることを疑わず、これからも一日一日を大切にしていってほしいと思います。『念ずれば花ひらく 自分の花を咲かせよう』、みなさんのこれからの人生が前途洋々で幸多かれと祈っています。卒業生163名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。



【答 辞】

校歌の一節にある「朝夕仰ぐ富士が峰」。その富士の白い頂は心なしか身を縮め、通いなれたこの学び舎にも暖かな春の陽ざしを感じます。本日、この佳き日に私たち163名は敷島中学校を卒業します。

3年前、私たちは期待と不安に胸を膨らませて門をくぐりました。あの日から瞬く間に月日は流れ、数えきれないほどの思い出を仲間とともに創ってきました。

世界に猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響は、まだ私たちの生活の中に残っていました。中学校に入学し、出会った仲間との初めての宿泊学習、とても楽しみにしていましたが、残念ながら中止となってしまいました。冬には二週間の分散登校がありました。クラスの半分の人数しかない教室には、寒さ以上に寂しさを感じました。クラスの仲間全員が揃い、同じ場所で学ぶことができるありがたさに気づきました。

2年生になり、私たちも「先輩」と呼ばれるようになりました。4年ぶりに二日間に渡って開催された年輪祭では、先輩方の大きな背中に圧倒されました。前会長の小林和喜さんの「止まっていた時を動かそう」という言葉。その言葉に、私は心が震えました。笑顔と希望あふれる学校にしたい、と本気で思いました。青学年全員で歌う初めての学年合唱には何度もつまずきましたが、私たちが憧れとしていた先輩方の合唱に少しでも近づけるようにと、仲間と声をかけ合い、精一杯表現しました。

そして、全てに「最後」がつく3年生になりました。今年度、敷島中学校生徒会は、一人ひとりの想いを尊重し合い、毎日が笑顔と希望であふれるようにと、「常笑希粒」をスローガンに掲げ活動に取り組んできました。私たちにとって中学校生活最初で最後となった宿泊学習、修学旅行は、集団としての力を学び、素晴らしい出会いや発見がありました。部活動では3年間の活動を通して仲間の大切さ、努力を重ねることの尊さ、あきらめない気持ちなど、人生に必要な多くのことを学ぶことができました。

最後の年輪祭。3年生が文化部門で発表した学年合唱の『リフレイン』には、「この今は一度だけ」という歌詞があります。「今」という時間は二度と戻ってこないと思ひ締めながら取り組みました。全校ソーランは3年生としての意識が足りず、叱咤激励を受けましたが、ソーラン隊を中心に声をかけ合い、多くの人を感動させるソーランを作り上げられました。仲間と一緒に転び、手を取って立ち上がったムカデ競争、気持ちを一つにして跳んだ長縄、作戦を考え、挑んだ玉入れ、クラスの仲間の思いを握りしめ走ったりリレー。大きな「翼」を空いっぱい羽ばたかせた年輪祭でした。

年輪祭を始め、この一年、私たちが全力を出し、精一杯を表現できたのは、在校生の皆さんの協力があったからです。皆さんが生徒会活動を支え、取り組みに積極的になってくれたからこそ、全校で「常笑希粒」を発生させることができました。今日、この伝統ある素晴らしい敷島中学校のバトンをあなたたちに託します。今よりももっと笑顔と希望であふれた敷島中学校にしてください。

最後に、3年間共に歩んできた仲間たち。この仲間に出会えたからこそ、今日という日まで3年間、多くのことを乗り越えられたのだと思います。一緒に泣いたり、笑ったりしたかけがえのない日々は私の宝物です。今まで本当にありがとう。

私たちは敷島中学校で学んだ全てを胸に刻み、希望をもってそれぞれの夢に向かい走り出します。青空へ大きく羽ばたかのために、自分を信じ、前へ進んでいきます。



令和6年3月11日

卒業生代表 井口 彩葉